

## 馬を水辺に連れて行けても水を飲むことはできない

校長 和内 正也

私は教員生活を特別支援学校からスタートしましたが、2校目に中学校へ異動しました。赴任先の中学校で表題の言葉を知りました。作者不詳とのことですが、イギリスに古くから伝わることわざだそうです。

この言葉は、「水を飲むか飲まないかは馬自身が決めて行うことであり、無理矢理人が飲ませることはできない」という意味です。さらに補って説明しますと、「周りの人が色々な機会を与えて支援することはできても、最終的にそれを実行するかどうかは本人のやる気次第である」となります。



当時、といっても30年以上前、今とは事情が異なることも多々あることをお断りしておきます。私が着任した中学校では、小学校まで聞き分けの良い感じで、保護者や先生に言われたことを素直に従ってくれたのに、中学生になると「自分」がしっかり形成されてきて、反抗期などもありますから、周りが「勉強したら？」と言っても素直に聞かなくなる様子の子どもたちがある程度いました。特に1年生時に保護者から家庭訪問や面談等で、「中学生になって勉強しなくなった」「言うことを聞かない」といった相談を受けることが多かったです。表題の言葉は教員間で「勉強、勉強と言いつつ聞かせても、本人がやる気を出さなければ難しいよね」と話しているときに先輩が言った言葉で、当時の印象が強く今でも自分の中に残っています。

この言葉の「無理やりさせることはできない」というニュアンスには、本人の自主性を重んじる姿勢が感じられ、当時中学校らしさを感じました。一方、「できない」と否定で終わっていますので、「できないのは本人のせい」、と言いつつ使われがち傾向があります。

私はこの言葉の大切なポイントは、まず「本人を尊重すること」だと思います。次に「本人のやる気次第」という話になるわけですが、「だからほっとけ」ではなく、やる気をいかに引き出すか、という問いへの答えを周囲は探し、本人に働きかけていこう、ということだと思っています。当時、私は中学校に異動したばかりでわけもわからず、どうしたら子どもたち自身が勉強に向かってくれるか、そのためにどんな工夫が必要かを一生懸命考えることとなりました。大多数の子どもたちは、教職員や保護者からの働きかけとともに、学年が進むにしたがって進路決定を意識するようになり、勉強に向き合うようになっていきました。

現在は私が中学校に着任した頃には想像できなかったICT機器などが活用されています。新しい教材やノウハウ、心理学の知見などが学校に蓄積されました。昔懐かしい言葉を皆様に紹介しつつ、学校として子どもたちが自分から学習に取り組んでいけるよう、上手にやる気を引き出せる支援指導ができるよう、これからも努力していきたいと思っています。

## 学習の様子

### ～本校・センター院内学級～

後期のスタートは、センター病院から校長先生のお話を発信しました。

図工や家庭科など、さまざまな教科で色とりどりの作品ができました。音楽では器楽合奏で素敵な音色を奏でることができました。



## 秋の壁面制作

### ～福浦院内学級～

もみじの葉を使って、ローラー版画をしました。紙に葉を置き、絵の具のついたローラーをコロコロすると、葉がくっついて、もみじ型の白抜き模様ができる様子を楽しみながら制作しました。



## 前期終業式・後期始業式

10月6日(金)に前期終業式、10月10日(火)に後期始業式がありました。

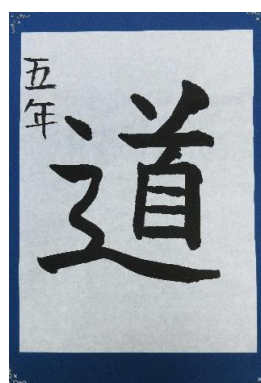
前期に作った作品や合奏、作文などの学習活動を各学級より発表しました。前期を振り返ることができました。



各学級とリモート接続

## 学習活動の様子

### ～訪問指導学級～



書写の時間に「道」を毛筆で書きました。「首」のバランスや「しんにょう」の右払いを意識して、丁寧に書きました。

イニシャルを縫い取り、ボタンを付けて、ネームプレートを製作しました。



炭電池を作って、オルゴールを鳴らす実験をしました。



## 11月の予定

1日(水) 全校朝会

3日(金) 文化の日

15日(水) 環境教室

その他の予定は、各院内学級よりお知らせします

本校における9月のいじめ件数は 0件でした。